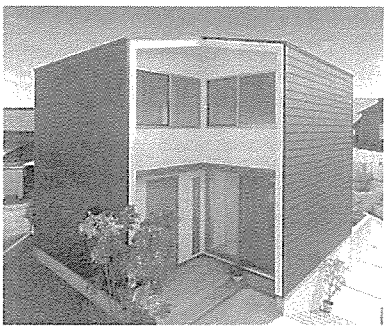
ケイミュー

CBウォール最優秀

コンテスト1400点 応募数が大幅増

ケイミュー㈱（本社・大阪市、小森隆社長）は11月11日、奈良県新公会堂で「ケイミュー施工事例コンテスト2014」の表彰式を開催した。今年8月末までの約1年間に完工した、同社商品を使用した物件が対象。1369点の応募があり、29点の入賞作品が発表された。



最優秀賞作品。屋根勾配は2寸5分

最優秀賞には、大分県の住宅会社、㈱ベツダイが分譲住宅として販売している「ユニタス クロスハウス」（写真）。今年のグッドデザイン賞にも選ばれている。投影図が十字型になる総2階、方形屋根の建物で、29点の入賞作品が発表された。

最優秀賞には、大分県の住宅会社、㈱ベツダイが分譲住宅として販売している「ユニタス クロスハウス」（写真）。今年のグッドデザイン賞にも選ばれている。投影図が十字型になる総2階、方形屋根の建物で、壁面と屋根にカラーベストとコロニアル遮熱グラッサが使われている。ケイミューは、壁面にカラーベストを使用する工法を「CBウォール工法」としてPRしている。

デザインを担当した安田泰文氏によれば、屋根と壁を同じ素材で施工しようと探した結果、「カラーベストしかなかった」という。注文住宅ではないので全国での流通や、施工性が求められるからだ。

「まとまりある外観を表現できたのは、ケイミューがトータルで外装を考えているから。信頼される品質の住宅を造ることができた」とした。サッシ以外の外装はケイミュー商品が用いられている。

今年のコンテストは昨年の890点から大きく応募数が伸びた。小森社長は「住まいを見せるという点で素晴らしい作品が多い。ますます進化させていただき、我々は製品づくりに一層力を入れていく」と話した。

小森社長によれば、奈良公園内の新公会堂での開催は奈良県の紹介によるもの。ケイミューが大和郡山市にテクノセンターを開設した縁という。

表彰式後、参加者は復元工事中の興福寺中金堂の現場や周囲宝館を見学。中金堂では足場に上り、本平瓦が葺かれた大屋根を間近で見学した。

井野瓦

一本伏でスッキリ

簡略施工の「数寄屋」発売

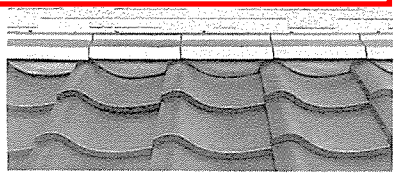
井野瓦工業㈱（高浜市、井野哲也社長）は11月より、冠瓦と丸瓦の新製品を「数寄屋シリーズ」として発売した。一本伏せの簡略な棟部が増える中、7寸丸や三角冠よりスッキリと棟を仕上げ、7寸丸より廉価に施工することができる。

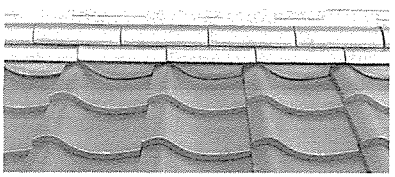
「数寄屋冠」は長さ265㎜のJ形53A用冠瓦。組はなく、雨は玉口でとる。幅244㎜、高さは95㎜。のし瓦1段に素丸瓦ほどの高さとなり、冠自体が2段形状。玉口に棟芯材が当たらないよう工夫されており、棟芯材にビス止めする。乾式でも湿式でも施工可。また同社は防災面戸のし瓦の開発も急いでいる。

「数寄屋丸」は幅5寸3分の組なし丸瓦。高さは5寸素丸瓦と同じで、断面は半円。数寄屋冠だけでは寂しいとき、重ねて使用できる丸瓦だ。また風切丸にも利用可能で、桟山を落とさず施工できる。

J形の棟の簡略施工では、三角冠では働き幅が合わず、7寸丸では緋が意匠的な制約となっていた。数寄屋シリーズは簡略工法ながら「すっきりと、より和風に見せる」ことが可能。子葺次第で丸瓦を追加することもできる。数寄屋冠、数寄屋丸ともに棟止め瓦も同時開発。また隅棟用のカッポンも用意されている。

同社では幹部・袖部を簡略施工ですっきり見せる「涼風シリーズ」も発売中。数寄屋シリーズとの組み合わせで、簡略施工でもより完成度の高いデザインが提案できるようになった。





上は数寄屋冠のみの棟。下は数寄屋丸を重ねた棟

ハウゼコ

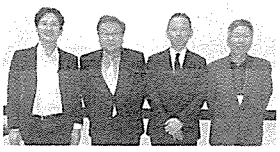
一般社団法人を設立

学者ら顧問に換気の研究

金属製建築材料の製造販売業、㈱ハウゼコ（本社・大阪市、神戸睦史社長）は11月13日、東京ビックサイトで「一般社団法人住まいの屋根換気壁通気研究会」の設立を発表した。

研究会の活動目的は、「換気・通気による住宅外皮の耐久性向上に関する研究、およびその推進のための会員と学識経験者、会員相互の交流」。会員対象は建築設計事務所や工務店、住宅会社、これらの企業に所属する個人など。

役員は神戸社長が理事長に、坂本雄三氏（建築研究所理事長、東京大学名誉教授）が特別顧問に、石川廣三氏（東海大学名誉教授）らが顧問に就任した。専務理事は松尾和也氏（㈲松尾設計室社長）。



右から石川、神戸、坂本、松尾の各氏

席上、坂本特別顧問は「本来、国の機関がやるべき研究をハウゼコが行っている。木造住宅の耐久性を学術的に裏付けて、高めていくことは国の目標にかなったもの」と、一般社団法人設立の意義をアピールした。

㈱ハウゼコ（担当・池田氏）☎06・4963・8266

ホームショー

輸入金属3社出展

淡路は主力のJ、F形PR

11月18～20日、東京ビックサイトではジャパンホームショーが開催され、淡路瓦工業組合が淡路瓦を、日本セラミックス商事や北洋交易、韓国のFEルーフらが石付き金属屋根材をPRした。

長野瓦らは高知県産業振興センターのブースでJ形の耐震棟「eeBOX」をPR。また透湿下葺材のドルケンがドイツパピリオンで、ハウゼコも日本建築材料協会のコーナーで出展。旭化成建材やナガイは単独出展した。

淡路瓦はいぶし瓦J形と陶器瓦F形を大屋根に葺いて、主力屋根材をPR。F形はフルフラット形状。来場者にはメーカー関係者が瓦の特長や製品説明を行った。

日本セラミックス商事は韓国の石付き金属屋根材「JASCOルーフ」の販売代理店。日セラが開発した外断熱仕様専用下葺材「JC断熱マット」との組み合わせでリフォーム提案。カバー工法に使用でき、軽量化とともに断熱性、耐久性向上を図る。マットは発泡ポリスチレン、厚60㎜。

ジャパンホームショーは「ふるさと建材・家具見本市」「スマートハウス・エコハウス展」と同時に開催され、期間中の来場者数は3展示会で約1万8千人、インテリアなど他の展示会と合わせて約3万2千人（主催者発表）。

AHI

デクラ4地区定例会

最高裁判所に「セネター」

石付き金属屋根材デクラ屋根システムを販売・施工するデクラジャパン会（4ブロック、140社）は11月下旬までに、北海道、東日本、西日本、山口・九州の各ブロックで秋の定例会を開催。計約80名が参加した。

AHIルーフィングから直近の出荷状況など報告があり、「リフォーム需要に支えられ、大きな落ち込みは見られない」という。海外ではマレーシアの最高裁判所には「セネター」が施工された。また4～6月の販売実績を開発した外断熱仕様専用下葺材「JC断熱マット」との組み合わせでリフォーム提案。カバー工法に使用でき、軽量化とともに断熱性、耐久性向上を図る。マットは発泡ポリスチレン、厚60㎜。

ジャパンホームショーは「ふるさと建材・家具見本市」「スマートハウス・エコハウス展」と同時に開催され、期間中の来場者数は3展示会で約1万8千人、インテリアなど他の展示会と合わせて約3万2千人（主催者発表）。

だるま窯火入れ

三州で参加自由

三州産地では今年も、だるま窯の火入れが行われる。窯への積み込みは11月26日、窯焚きは12月6日、取り出しは12月13日。いずれも土曜日、参加自由だ。場所は愛知県高浜市田戸町の丸栄製瓦。☎0566・53・1420）まで。

によるスプリンクキャンペーンの結果が発表され、「販売賞」「非住宅賞」「フォトコンテスト賞」の入賞者が表彰された。

今回は太陽光発電システムについての研修が定例会の目玉。デクラ屋根システムの新製品「セネター」では、金具に挟み込むだけという簡単施工が特徴の「ハイブリッドセネター」が設置可能。研修ではカネカソーラー販売㈱が、日本の太陽光発電の現状など説明した。

カナメが発明表彰

太陽光の取り付け金具

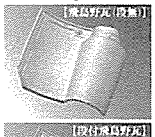
㈱カナメ（本社・栃木県、吉原正博社長）が開発、販売する産業用太陽光発電システムの「取り付け金具」がこのほど、発明協会主催の平成26年度東北地方発明表彰で日本弁理士会会長奨励賞を受賞した。

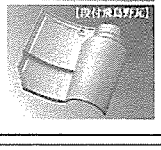
今回の受賞理由について、同社では「太陽光発電パネル設置工事における工期短縮、コスト低減の実現。それと同時に、太陽光発電パネルのサイズ・厚さ、取り付ける屋根形状などを問わない汎用性が評価された」としている。

飛鳥瓦　意匠登録第549771

古代を受け継いだ平瓦、丸瓦を一体化した新式で、姿形はそのままに伝統の在来型として耐震強風軽量引掛桟工法の【飛鳥野瓦】

―三河産・淡路産2種類・2タイプ―





製造発売元　瓦寅工業株式会社　創業大正5年

URL http://www.kawara.co.jp/~kawaratora/

本社　大阪市生野区林寺1丁目5番14号
電話代表 06(6715)0201～5
FAX 06(6715)0194・06(6716)6539

瓦業界と共に歩む信頼と技術の ISHIKAWATOKI

主要営業品目
全自動瓦成型プラント
油圧プレス・スクリュウプレス
カムプレス・吸着式カムプレス
真空土練機・配合供給混練機

株式会社 石川時鐵工所
本社　〒447-0053 愛知県碧南市音山町2丁目23番地
TEL (0566) 41-1219(代)
吉良工場　愛知県額田郡吉良町大字下横須賀字勘左山56
TEL (05633) 5-0078 (代)

楽付 防災 袖
・スリ合わせなし
・ズレ防止

PAT.

創嘉瓦工業株式会社
愛知県高浜市豊田町一丁目5番地5
TEL:0566-52-2215 FAX:0566-52-1637
URL http://www.souka.co.jp/